



2面で館内水族館を紹介

ななくさなすな～七草の講座がTV県内ニュースと地元紙で紹介されました

<https://www.kawaranbe.net/>

七草がゆを味わう

1/11
32名

お正月の伝統行事「ななくさなすな～」を唱えて春の七草をタタキ 災いのもとを追い払いました。これで無病息災、一年間 元気に講座に参加できますね

唄にあわせて七草を包丁でトントンやります



七草の緑が鮮やかお餅も入った七草がゆいただきます

ななくさなすな どののどりがにほんのどちにわたらぬさきに ななくさなすな あわせてはたはた

トントンやっ 災いのもとを追い払い 無病息災

小さな子は保護者と一緒に

春の七草 どれがどれかわかるかな

七草のうち「なすな」と「はこべら」をとりました

「はこべら」は柔らかい葉と茎がたくさん

地面が凍っていて「なすな」をとるにはこんな感じ

寒い朝 真冬の野で春の七草さがし

12/19 ウォーキング

13名 坂道の城山コースを歩きました



1/9 絵手紙

12名 土鈴に干支の日を着色しました



12月15日～1月14日

がわらんべ講座

詳細はコチラに掲載しています



おやす作り

12/21
31名

伊那谷のお正月文化を知る講座 稲ワラと松と和紙を材料にして【おやす】を手作りしました



地元の関谷さんに作り方を教わりました

おやすの大部分は稲わらでつくります

なれば かんたん わらを加えて折ってのくり返し



「しめなわ」は左ない左手を前に押し出すこれが難しい

「おやす」と「しめなわ」と「松」と「かいたれ」をつけたら完成です



伝統行事を体験してみんなに伝えていきたいと思います

天竜川ミニ水族館

水中の世界をいつでも楽しみ
川の生き物と親しくなれる場所

「かわらんべ」に来る人のほとんどが水槽コーナーを見ていきます。ときには大声で「見て見て」「いっぱいいる」「スゴイ」とか「カメがいる！」と驚きや喜びの声が館内に響きます。天竜川でとった生物を常時見学できる流域の施設としては種類の多さで一番かな？天竜川の生物の実物を知っていただく展示を開館から20年以上続けています。当初は「かわらんべ水族館」として水槽6基で5~6種類程度の生き物を展示していました。15年ほど前に「天竜川ミニ水族館」に改名し飼育種類も多くなりました。現在は種類の多さもさることながら、水草や石の配置を見た目よくすることや展示の魚たちを長生きさせることにも力を注いでいます。

展示の内容も変化してきました。河川の外来生物が目立つようになった頃から、その影響や対策を周知するためウシガエルの実物を展示して駆除の協力を呼び掛けたこともありました。また、カメが産んだ卵を管理して生まれた子カメを飼ったりしました。みんなを驚かせようと、天竜川でとれた大きなナマズや50cmのイワナを展示したり、お目にかかることの少ない絶滅危惧種も展示して川の環境と生物へ興味を引く工夫も重ねてきました。

ここの建物の中での飼育はとても難しく、歴代の飼育担当も相当苦労していたようです。今は飼育のコツをつかんで、展示中の魚の多くが長生きするようになると、飼育も楽しくなってきました。水中の生き物たちについても会える場所です。みにきてね。



年代に関係なく一番人気は【カメ】たくさんのカメを飼っているのが「かわらんべ」はカメが好きと思われがちですが、これらは拾われて保護されたものや飼えなくなって持ち込まれたものなど、行き場がなくて預かったカメたちです。「飼育は責任をもって最後まで」を知っていたかための周知の目的もあります

飼育しているカメが産んだ卵から子カメを育てたことでもありました。飼育は、生き物の命や、生き物の生態、生きるために必要なことなど、いろんなことを学べます。命をあずかる責任を感じつつ、そのことを伝える場所でもあります(写真は2013年)

特別な許可をとってウシガエルを飼っていた時期もありました。外来生物の実物を見て知って、増やさないことを周知する目的のための大掛かりな展示でした。ウシガエルの駆除活動によってほぼ根絶した今、その後姿を終えたウシガエルの生体展示は片づけました。でも、その頃の印象が強かったのか、今でも「ウシガエルは？」と、当時を懐かしんで聞かれることがあります



開館の頃の「かわらんべ水族館」水そうの数は6で魚の種類も少なく、まだ水族館らしくない姿(写真は2004年)

水そうの数が次第に増えてきましたが、種類にかたよりが、あまり詳しく紹介できない頃(写真は2006年)

2010年から「天竜川ミニ水族館」2015年ころから種類も増えて、やっと水族館らしくなりました(写真は2013年)

館内展示の紹介

【展示について】
■観覧無料です
■開館時間ならいつでもご自由にご覧ください
■カメやサワガニなど一部の生き物はさわっていいですが体験後は必ずシッカリ手を洗ってください
■生き物をオドロかせないように(水そうをタタかない)
■週1回の水そうの水替えの際には展示をお休みします

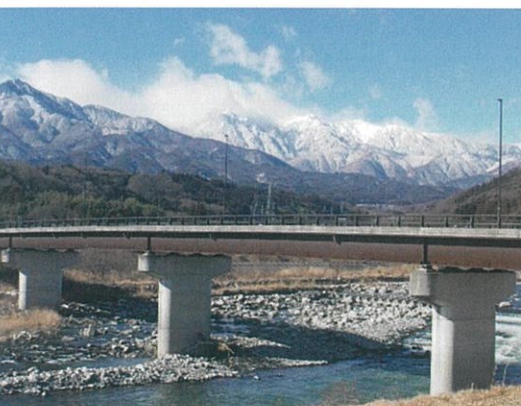
＜飼育あれこれ＞
■専門に飼育する人がいるの？ → 飼育だけを専門にしている人はいません。管理しているスタッフは他の仕事を専門にしている、空いた時間で管理します。たいへんです
■エサは？ → 毎朝あげます。種類ごとにエサの好みあって、エサを揃えておのもたいへん。生きた魚や川虫しか食べない種類のためのエサ集めが とくにたいへん
■水かえは？ → 夏は週1回、冬は二週に1回 重要なのが水替えのための水を前日から準備しておくこと(塩素を抜くと水そうの水温に合わせるため)。魚が使った水を次にカメが使い節水を心がけています。カメとサワガニの水はすぐ汚くなるのでたいへん
■死んじゃった魚は？ → カメのエサにします(他の命のために)
■魚はどうやって集めるの？ → 漁協組合員のスタッフが全部の生きものを集めています。投網やタモ網を使って近くの川からとってくるのですが、目あての生きものがとれる場所を知っていないと集められません。とってきた魚を水そうに慣らすまでが たいへん
■飼育で感じたこと → ①ここでの飼育はとももズカシイ、いろんな淡水魚を育てた経験がありました。この建物の飼育はともも難しいことを知りました。とくに休館中の対策をしないこと全滅することもありました ②来た人が喜んでくれること、これだけを励みに、たいへんな管理も充実感を持って続けられます

天竜川 川の旅

第37回 天竜川の古名「天の中川」を冠する橋 写真で紹介

天竜川の源流から河口にかけて、天竜川の姿や自然、人々の関わりをご紹介します

天竜川には時代ごとに呼び名があり、鎌倉時代には「天の中川」と呼ばれていました。今回紹介する橋にはその名が付いていて、村名の由来である天竜川を中心に結末する新しい村「中川」にも通じる魅力的な名称です。この橋の周辺には水防や河川文化などの見所があって、講座の現地見学で何回か訪れています。そんな橋周辺の様子を写真で紹介しました。



架け替え前の旧橋(2006年)

伊那谷遺産の見学講座(2014・2015年)で周辺の見どころを見学 2014年には中川村歴史民俗資料館の学芸員さんに案内してもらいつつ理兵衛堤防の発掘やその構造について詳しく学習

毎年夏休みに水生生物調査イベントが開催されます(2022年)

天竜川の古名が橋の名前

和船体験イベントもありました(2012年)

以前は橋の上流に、天竜川最後のヤナ(魚をとる仕掛け)がありました。今は休止しています(2013年)



橋の西側には木曾山脈 南駒ヶ岳の頂や百間ナギの眺望も良好です(2014年)

新しい橋に架け替え中に江戸時代の堤防「理兵衛堤防」の石組が出土(2010年)

出土した理兵衛堤防の一部が橋の西側堤防付近に移設され展示されています(2014年)

近くの公園には龍の姿が大きく刻まれた丸頭龍碑があります(2023年)



海から天竜川や諏訪湖にやってきたウナギの生活

築(やな)のつくりと漁のようす(「天竜川のあの頃」に掲載の写真5を改変して引用)

“川らんべ”通信

天竜川とその周辺河川にかかわりの深い 自然・文化・防災などについて解説します。

天竜川の あの生き物は 今

連載① 天竜川・諏訪湖を代表する魚だった!? <ウナギ>

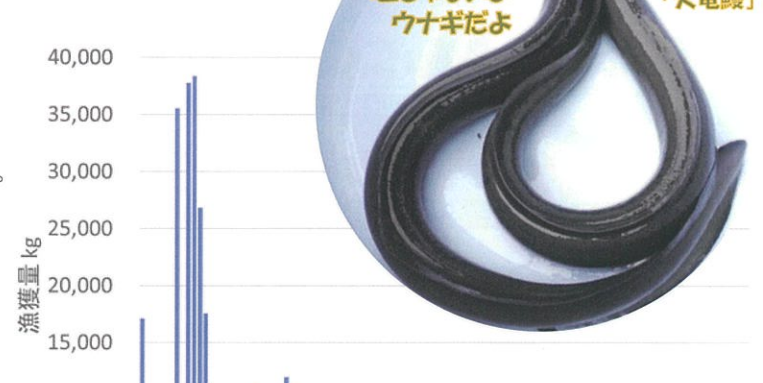
「名前はよく聞くけど見たことない」「あの生き物どうなった?」「最近見ないけどまだいるの?」「昔はいたけど…」生き物の話題の中にそんなフレーズが多くなりました。昔なじみの あの川の生き物の今をさぐってみました

引用文献
■伊那路 第21巻12号(通巻251号)
■写真集 天竜川のあの頃
■長野県水産史
■岡谷市史 下巻



現代の「天竜鰻」

昨年7月に「信州ウナギ調査隊」の学習を引き受けた際に、諏訪湖でとれたウナギの漁獲量データを整理しました。すると、今では見かけないウナギも、昔はとて多かったことがわかりました。なぜ減ってしまったのかを考えると調査隊の命題でしたので、その理由を考える上でカギとなるウナギの生態と生息環境を紹介しました。「ウナギは海と川を行き来して生活する魚です。天竜川の途中に大きなダムがあると、ウナギは海との行き来ができなくなって、稚魚は上流に行けず、成魚は海に産卵に行けず、結果としてウナギは天竜川で生活できなくなります」と説明すると、誰もがウナギの減少がダムが原因だと想像します。ウナギの移動経路の天竜川には昭和2年に大久保ダムの建設が始まり、昭和4年に吉瀬ダム、昭和6年には泰阜ダムが着工となり、漁獲量の減り方のきわだった時期とも一致します。



しかし疑問もあります。ダムは諏訪湖や漁場より下流での建設ですから、諏訪湖に生息するウナギ成魚の漁獲にはすぐに影響はないはず。なぜならウナギは漁獲されるまで長くて10年ほどその場で生活します。稚魚は上流に行けないことの影響が漁獲に現れるのは もう少し後の年と予想されます。では、なぜウナギは急激に減少したのでしょうか？
当時のウナギ漁は、築(やな)と呼ばれる大規模な仕掛けを川幅いっぱいに設置し、ウナギが産卵のために秋の雨の後に一斉に行動する性質を利用して効率的に捕獲しました。好条件なら、わずかな時間で1トンほどとれたと伝わるほど大漁だったようです。単純に考えて、そんなにとったら当然減ります。しかも、とれたのは産卵に向かう魚ですから天然資源は少なくなる一方です。
ダムは、ウナギの回遊生活を妨げて伊那谷から天然ウナギを消してしまった原因であることには間違いのないのですが、その後も各地のウナギを減らすこととなった原因は最盛期の「とりすぎ」や水質などの生息環境の変化だったのかもしれない。

海から遡上したウナギの移動を阻むほどの大きなダムは天竜川に5基あるが、最初に建設されたのが泰阜ダム(すでに上流に設置されていた吉瀬ダムと大久保ダムには魚道があるため5基に含めない) 昭和6年(1931年)に建設が始まり10年(1935年)に完成 着工した昭和6年の漁獲は、最も多かった昭和元年の7分の1ほど ダム建設中やその後もウナギ漁獲量が一気に減らない理由は、ダム下流まで来た稚魚をとってダムの上流に放流していたためである(長野県水産史より) 大正時代から諏訪湖へのウナギ放流が始まっており、大正から昭和初頭にかけて漁獲量が多くなったのはこれに関連する可能性がある。なお、昭和20年前後の減少は太平洋戦争の影響と考えられる。 ※平成・令和も漁獲はあるものの、その量はグラフでは表示できないほどに少ない(ただし漁獲の自家消費分も少なくないものの、これについては漁獲統計に計上されていない)



天竜川のウナギにはもう会えないかもしれないと寂しさを感じた調査隊の学習でしたが、そんな講座を行った4か月後、本誌12月号のアマゴ発眼卵飼育の取材で上伊那の天竜川漁業協同組合さんを訪れた際に、天竜川水系の巨大ウナギに出会いました。その魚は漁協さんが外来魚駆除の際に天竜川にほど近い支川のタマリで偶然とったもので、ウナギの太さは大人の手の指ほどもあり、顔にも大物の風格がありました。かつての大物サイズ(夏で1.5キロ)に匹敵する「天竜鰻」を彷彿とさせる魚でした。

このウナギは諏訪湖か天竜川で放流された個体が移動して成長したものでありますがこんなウナギが現代の天竜川水系にいることに感動と同時に、養殖放流がなければ出会うことのできない事実にも悲しさを覚えました。



写真では伝わりにくいのが残念ですが、実際は巨体の大きさ・迫力・風格(表題横の写真も同じ個体) 天竜川の支川で天竜川漁業協同組合が実施したブラックバス(外来魚)の駆除作業の際に偶然捕獲された(写真は天竜川漁業協同組合の いけす で2024年11月15日に撮影)

辰野のあたりではウナギが多く 大きく短い天然の「天竜鰻」がとれた

■前日雨のササ濁りの1時間で 二百五十貫(940kg) 「天竜川の築」 榎木 重二

・置く場所がないほどとれた
・「富士南の風」のときは「とれすぎるととれた」
・そのようすは【そうめんくんだり】
・辰野ではウナギが多くアユが少なかった

■一昼夜で 二百貫(750kg) 「辰野の遡上(二)」 酒井 十四男

・土用が過ぎて涼風が吹くと「落ち鰻」の季節
・大物は、冬で八百匁(3kg)夏で四百匁(1.5kg)
・「富士見風」や「ササニゴリ」で大漁

最盛期のウナギ漁を伝える逸話(「伊那路251号」昭和52年)

2月 かわらんべ講座 受付中

※2月の休館日は、5日(月)・13日(火)・19日(月)・26日(月)

- 基本的にマスクの着用は個人の判断をお願いします
- 念のため、どの講座もマスクは持参ください 地域の感染状況や講座の内容(乗り合わせ移動)などによっては着用をお願いする場合があります
- 天候・水量や感染予防の観点から【中止】や【変更】となる場合もあります 情報はホームページで公表します



春さがし 2/1 土
 子どもと保護者 会場：水辺の楽校（屋外） 午前9:30～11:30

和紙を使ったあんどん作り 2/8 土
 子どもと保護者 会場：かわらんべ（屋内） 午前9:30～11:30

冬の鳥をみつけよう 2/15 土
 子どもと保護者 会場：水辺の楽校（屋外） 午前9:30～11:30

昆虫食体験「ザザムシ」 2/22 土 定員15組
 小学生と保護者 会場：天竜川 午前9:30～11:30

絵手紙 2/6 木
 成人講座 定員20名 午前9:30～11:30

エコ布ぞうり作り 2/13 水
 成人講座 定員15名 終日9:30～15:00

ウォーキング 2/20 木
 成人講座 定員30名 午後13:30～15:30

講座へご参加いただくときのお願い事項

- 開始時刻5分前には受付をすませて会場でお待ちください
- 事前にホームページの「おしらせ」や講座ページを見て最新情報を確認してからご参加ください（急な変更などを掲載することもあります）
- 欠席するときは必ず事前に連絡をください（材料準備や会場設定のため）

3月 かわらんべ講座

※3月の休館日は、3日(月)・10日(月)・17日(月)・21日(金)・24日(月)・31日(月)

受付2/1から

受付期間 2月1日(土)から講座日前日まで
 ※受付期間内でも定員に達した場合は早期に受付終了となります

きれいな石さがし 3/1 土
 子どもと保護者 会場：天竜川 午前9:30～11:30

天竜川の河原で石をひろって種類を見分けたり、流れる水のはたらきで運ばれてきた石のことを学びます
 よ〜く探せば透明っぽい石や赤い石など、きれいな石も見つかります

- 【持ち物】
- ・石を入れる袋
 - ・防寒着
 - ・長ぐつ
 - ・筆記用具



きのこ栽培 3/8 土
 子どもと保護者 会場：水辺の楽校と周辺 午前9:30～11:30

自宅の庭でヒラタケという食用のキノコを栽培してみよう（おいしいキノコです）
 育てる楽しみを自宅で体験でき、うまくいけば秋には収穫できます
 今回はタネを植え付ける作業をします

- 【持ち物】
- ・原木を持ち帰る袋
 - ・軍手
 - ・防水手袋
 - ・防寒具



グラウンドゴルフ 3/15 土
 子どもと保護者 会場：わんぱく芝広場 午前9:30～11:30

ルールも道具も簡単なゴルフです
 早春の河川敷の芝広場でのびのびと、遊び感覚でプレーできて、いい運動になります

- 【持ち物】
- ・防寒対策
 - ・帽子
 - ・手袋



■会場：わんぱく芝広場
 かわらんべから堤防を歩いて5分程度の天竜川河川敷です 駐車場もあります 車での来場の場合は【飯田市川路多目的広場】の駐車場に駐車してください

草もちづくり 3/22 土
 子どもと保護者 会場：かわらんべ正面 午前9:30～12:00

年度最後の講座です
 1年間無事に講座ができたことと、来年度も予定どおりに講座が開催できることを願って、みんなで餅つきをして締めくくります

- 【持ち物】
- ・袋(ヨモギ用)
 - ・軍手
 - ・防寒具
 - ・モチを入れる容器とはし
 - ・調理の服装(エプロン・帽子・マスク)



春の水辺の楽校を会場に子供たち全員で餅つきします

ヨモギを入れて色鮮やかな「草もち」に

雨や雪の場合は館内で餅つきします

受付中 成人講座は受付中

※3月の【絵手紙】はお休みします

ウォーキング 3/13 木
 成人講座 定員30名 午後13:30～15:30
 沿川3地区1周コース 川路/龍江/竜丘を天竜川沿いに歩きます(7km)
 ■持ち物 長距離歩く 装備

ホームページの「申込みフォーム」からのお申し込みについて
全員のお名前を記入ください! 参加者のお子さんだけでなく、付き添いの保護者の方のお名前も全員分お知らせください!

- ・講座中の万が一に備えての保険加入に必要な情報です
- ・会場設定や材料準備において保護者の人数把握も必要です
- ・お子さんだけのお申込は受付保留となりますのでご注意ください